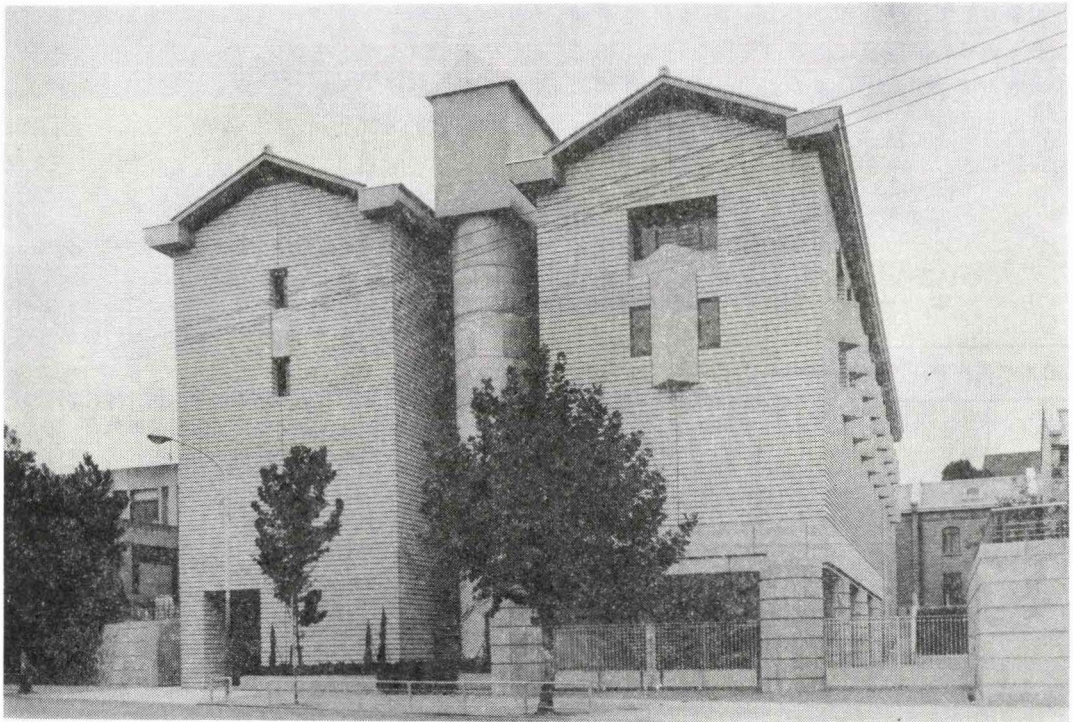


京大広報

No. 317

京都大学広報委員会



竣工した文学部博物館 一関連記事本文149ページ

目 次

拠点大学方式による国際学術交流……………	148	<紹介>	
昭和61年度京都大学市民講座		人文科学研究所	
「生と死」……………	149	出版物と講演会……………	152
文学部博物館の竣工披露……………	149	<資料>	
公開講座		昭和61年度新設の建物等（追加）……………	153
工学部「水と生活」……………	150	訃報……………	153
農学部「農業簿記・農業経営講習会」……………	150	第25回国立七大学総合体育大会で	
理学部「高等学校教育関係者のための		本学が総合優勝……………	154
現代数学展望」……………	150	<随想>	
農学部・木材研究所「木材の科学」……………	150	三つの思い出	
人文科学研究所「社会・技術・人間」……………	151	名誉教授 貝原 基介……………	155
霊長類研究所「サル生物学」……………	151	日誌……………	156

<大学の動き>

拠点大学方式による
国際学術交流

発展途上国との学術交流の一つに、日本学術振興会の拠点大学方式による交流がある。

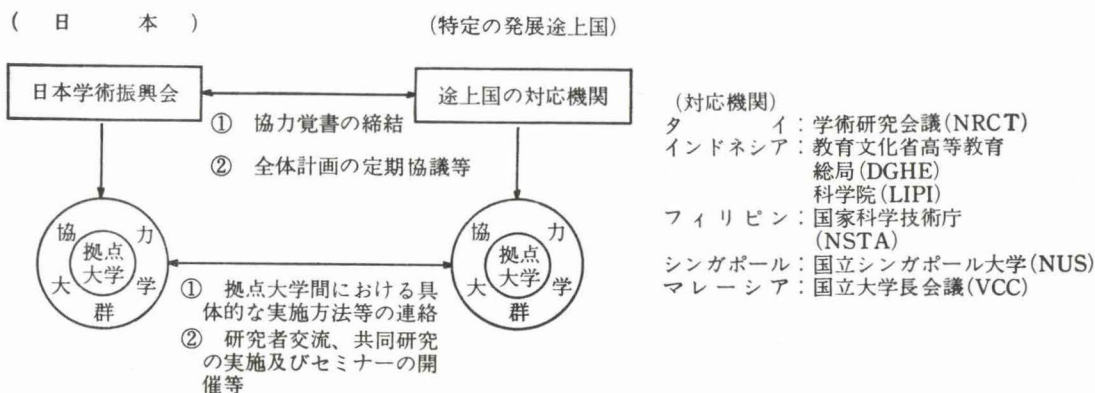
これは、一定の対象分野に関して交流実施の中核機関となる大学を拠点大学とし、その協力体として協力大学及び個々の協力研究者を包括する大学連合組織で対応する交流であり、東南アジア諸国を対象にして、研究者の交流、共同研究の実施、セミナーの開催及び情報の交換を行うものである。拠点大学方式の仕組みを図示すると下図のようになる。

別表のとおり、昭和59年度から「総合工学」の

分野について本学（工学部）が日本側拠点大学となり、マラヤ大学を拠点大学としてマレーシアの5国立大学と共同研究及び研究者交流を実施、今年度からは総合工学に関するセミナーも開催される。また、昭和61年度から「日・タイ研究」の分野について、本学（東南アジア研究センター）が日本側拠点大学となり、タイ国のタマサート大学を拠点大学として同様の学術交流を実施している。

なお、本学以外では、大阪大学工学部（タイ、シンガポール、フィリピン）、東京農業大学総合研究所（インドネシア、フィリピン）、東京工業大学（インドネシア、フィリピン）、神戸大学医学部（インドネシア、フィリピン、タイ）及び東京大学理学部（シンガポール）が実施している。

拠点大学方式の仕組み（『日本学術振興会事業の概要』による）



〔別表〕

日本側拠点大学	(同左) 協力大学	分野	対象国	相手国拠点大学	開始年度
京都大学工学部	東京農工大、京都工芸繊維大、阪大、神戸大	総合工学	マレーシア	マラヤ大学	59
京都大学東南アジア研究センター	筑波大、東大、東京外大、一橋大、名大、阪大、大阪外大、民博、神戸大、広島大、龍谷大	日・タイ研究	タイ	タマサート大学	61

昭和61年度京都大学市民講座

「生と死」

本学では、来る10月18日、25日、11月1日の各土曜日に広く一般市民を対象とする「京都大学市民講座」を開催する。

本講座は、財団法人京大会館楽友会の協力の下に、昭和54年以来毎年開かれているもので、今年度は「生と死」を共通テーマに、総合大学の特色を生かして学問の諸領域にわたる講義が行われる。

○受講定員 330名

○受講料 1,500円

○申込方法 往復はがきに住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記入（返信用には郵便番号、あて名を記入）のうえ、9月27日（土）までに庶務部庶務課学務掛（内線2041、2043）へ。

○会場 農学部W100講義室。

○日程

日 程	講 義	講 師
第1日 10月18日（土） 13:00～16:30	開講あいさつ	理 学 部 長 寺 本 英
	現代社会の病理 —環境破壊と公害—	経済研究所 教授 塚 谷 恒 雄
	現代社会の病理 —内面的自然の破壊—	医 学 部 教授 木 村 敏
第2日 10月25日（土） 13:00～16:30	「生きること」と「よく生きること」 —科学技術と人間—	文 学 部 教授 藤 澤 令 夫
	アフリカ狩猟採集民の世界	アフリカ地域研究センター 教授 田 中 二 郎
第3日 11月1日（土） 13:00～16:30	文学における生と死	教 養 部 教授 佐 野 哲 郎
	宇宙のはじまり	理 学 部 教授 佐 藤 文 隆
	閉講あいさつ	総 長 西 島 安 則

＜部局の動き＞

文学部博物館の竣工披露

昨年4月12日起工式を行った京都大学文学部博物館の新営工事、及び旧館部分の改装工事が完了し、8月4日（月）、新博物館1階ホールにおいて関係者出席のもと竣工式が行われた。

式は午前11時に始まり、中 久郎文学部長の式

辞に続いて、西島安則総長の挨拶、沢田敏男前総長、寺本 英理学部長の祝辞があり、正午過ぎに終了した。そのあと館内の披露があり、引続いて祝賀会が京大会館で開かれた。

新博物館は一般公開を予定し、学外観覧者の便を考慮して、東山通りに入口を設けている。開館は建物の乾燥をまって来年秋を予定している。

（文学部博物館）

— 公 開 講 座 —

工 学 部

「水 と 生 活」

工学部では、去る6月14日から7月5日まで4回にわたり毎週土曜日の午後1時から6時までで工学部大会議室において公開講座を開催した。

この公開講座は一般市民を対象に工学部及び関連研究所の名誉教授、教授、助教授が各自の研究分野から水と人間生活のかかわりあいを解説することを主眼としたものであり、129名が受講した。講義題目・講師は次のとおりであった。

雨と雪の話	(防災研究所)	田中 正昭
水資源の開発と利用	(〃)	池淵 周一
都の変遷と水運の話	名誉教授	長尾 義三
水辺環境のアメニティー		三村 浩史
水質保全技術の変遷		住友 恒
水と人工臓器	(医用高分子 研究センター)	筏 義人
水と発電技術		林 宗明
水とエネルギー		竹原善一郎 (工学部)

農 学 部

「農業簿記・農業経営講習会」

農学部・農業簿記研究施設では、7月11日から16日までの間、農学部講義室において公開講座「第50回農業簿記・農業経営講習会」を開催した。

この講習会は、農業簿記とそれに基づく農業経営の分析・診断・計画に関する理論と実務の普及を目的としたものである。講習会には農業改良普及員、農業協同組合職員、高校教員、その他団体職員、農家など北海道から九州まで40道府県の全国各地から110名が参加し、連日午前9時から午後5時まで受講した。講義科目、講師は次のとおりであった。

農家経済簿記および農家経済の分析・診断	亀谷 晃・稲本 志良・桂 利夫
農業経営複式簿記 (パーソナルコンピュータ実習を含む)	

阿部 亮耳・稲本 志良

農業投資および資本の計画・管理・分析

亀谷 晃・辻井 博

地域農業および農業経営の分析・診断・計画

西村 博行・熊谷 宏・宮崎 猛

(農学部)

理 学 部

「高等学校教育関係者の
ための現代数学展望」

理学部数学教室は、昭和61年7月24日(木)から7月30日(水)までの6日間、標記の公開講座を同教室講義室において開催した。数学の発展が数学教育にも大きな影響を与えていることに鑑み、この公開講座は、主として高等学校の数学教育関係者を対象に、いくつかの話題を選び、数学の最近の発展についての展望を与えることを目的としている。

今年は8年目で、各地から約70名の受講者があった。講義題目と講師は次のとおりであった。

量子力学と Hilbert 空間	池部 晃生
式と図形	戸田 宏
代数幾何学	丸山 正樹
カオスからフラクタルへ	山口 昌哉 (理学部)

農学部・木材研究所

「木 材 の 科 学」

農学部林産工学教室と木材研究所は合同で7月30日(水)から8月1日(金)までの3日間(午前9時から午後5時まで)の公開講座「木材の科学」を開催した。

この講座は、昭和57年以降毎年継続して実施されており、主として中学・高校の技術・家庭、理科などを担当する教員を対象とし、講義だけでなく各研究室に所属することによって、木材研究の最近の成果と展望の一端にふれてもらうことを意図したものである。今回は21名が受講した。

講座のスケジュールは、第一日を合同講義にあて、第二、第三日を各研究室における分属セミナー

一とした。それぞれのテーマ及び担当者は次のとおりであった。

合同講義（7月30日）

木材の組織構造的特徴と肉眼による樹種識別 （含実習）	藤田 稔
木材の物理	佐道 健
木材の化学	岡村 圭造

分属セミナー（7月31日，8月1日）

木材と人間の感覚	木材工学講座
木材における超ミクロの世界	木材構造学講座
木材のプラスチック化	木材加工材料学講座
X線で“見る”木材	木材化学工学講座
木材の物理的性質と加工	木材物理部門
顕微鏡下の木材組織	木材生物部門
木質—無機質複合材料の特性を探る	木質材料部門

リグニンによる木材の化学的識別
リグニン化学部門
（農学部・木材研究所）

人文科学研究所

「社会・技術・人間」

人文科学研究所では、恒例の夏期公開講座を8月1日（金）から3日間（午前9時より正午まで）、研究所本館において開催した。

1949年以来37回目を数える本年度の講座は、「社会・技術・人間」を共通テーマとし、日本部・東方部・西洋部各2名の講師により、次のと

り行われ、連日約110名の受講者があった。

明治前期の地域社会

一村寄合から町村会へ	奥村 弘
「政治社会」史という見方について	

清末の青銅器収蔵家たち	山室 信一
王羲之の「官奴帖」	浅原 達郎
テクノロジーと文化	吉川 忠夫
ヨーロッパの古さと新しさ	浅田 彰
	中村賢二郎

（人文科学研究所）

霊長類研究所

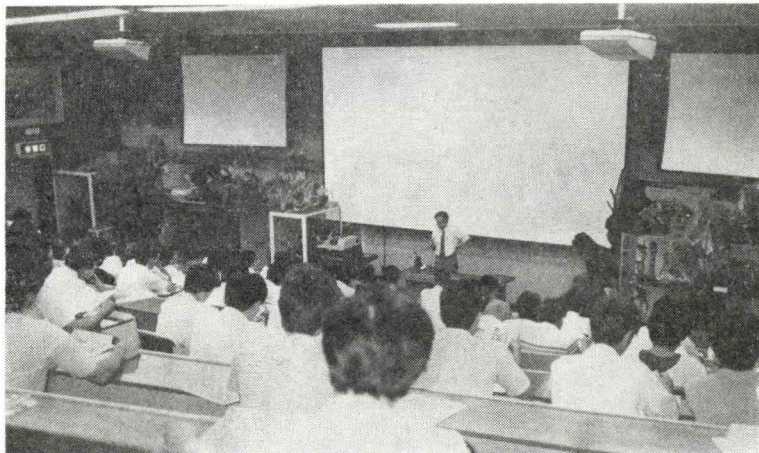
「サル生物学」

霊長類研究所では、8月5，6日の両日、日本モンキーセンター内ビジターセンター及び霊長類研究所において、公開講座「サル生物学」を開催した。

この公開講座は、生物学についてある程度の素養のある中学・高校教師、大学生、社会人等を対象とし、生物としてのサルについての科学的知識を解説した。今回は東海地方を中心に、近畿地方からの参加者も含め、126名が受講した。講義題目、講師は次のとおりであった。

サルの遺伝学	野澤 謙
サルの社会と生態	川村 俊蔵
サルの生理学	大島 清
サルからヒトへ	江原 昭善

（霊長類研究所）



霊長類研究所公開講座の講義風景

〈紹介〉

人文科学研究所

出版物と講演会

人文科学研究所は、本学の附置研究所として創設されたのは1939年であるが、現在のような機構になったのは、1949年に学外の東方文化研究所と西洋文化研究所を統合して以後のことである。昨年の日本学研究部門（客員）の新設により、現在は19の研究部門と附属施設としての東洋学文献センターを有し、研究の便宜上、日本部・東方部・西洋部の3部に分れて、研究活動に従事している。

公式には1939年の創設なので、創立50周年を3年後に迎える筈であるが、戦後に合体した東方文化研究所が発足した1929年秋を起点において、すでに1979年11月に創立50周年の記念行事が行われ、正史ともいふべき『人文科学研究所50年』も刊行された。

研究者は、個人研究のほか、必ず共同研究班に参加するよう義務づけられていて、それらの研究成果を掲載する出版物としては、定期刊行物の「紀要」と不定期の研究報告とがある。

紀要には、邦文の『東方学報』、『人文学報』と欧文の『ZINBVN』の3種がある。東方部の機関誌たる『東方学報』は1931年に創刊され、以後毎年少なくとも1冊を出し、今春に第58冊が出版された。日本部と西洋部共通の発表誌たる1950年創刊の『人文学報』は、ほぼ年2回のペースで、同

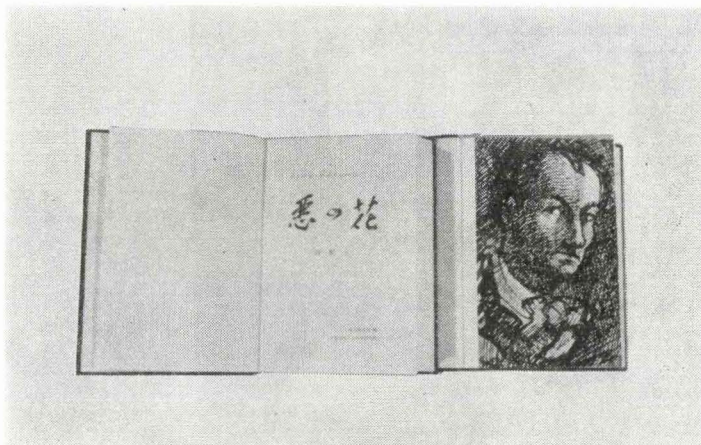
じく第60号を出版した。1957年創刊で、当初は不定期であった欧文紀要『ZINBVN』は、しだいに学術誌の体裁をととのえ、20冊に達している。定期刊行物としては、ほかに附属東洋学文献センター編で、東洋学に関する国内外の学術論文と著書を各年度ごとに網羅する『東洋学文献類目』があり、今春に1983年度版が出された。ちなみに、紀要類は校費で出版されるため、研究機関への寄贈と交換に限られ、市販されないが、『東洋学文献類目』は『東方学報』とともに、需要が多いことに鑑み、財団法人人文科学研究協会によって市販され、好評を博している。

研究報告としては、民間の出版社から刊行されるものと、校費によって本研究所から出版されるものがある。たとえば、今春に校費で刊行された多田道太郎編の『ボードレール「悪の花」註釈』は、B5版1570頁の2巨冊で、10年におよぶ共同研究の成果を、7回にわたり『人文学報』に発表してきた中間報告に基づいて増補したものである。題簽は桑原武夫名誉教授の筆になる。公式に「研究報告」と銘うった個人研究の著書は、最近では少ないが、1984年春に吉川弘文館から出版され、昨年度の学士院賞を授与された林巳奈夫『殷周時代青銅器の研究』は、その代表格である。不定期刊行物としては、俗に黄表紙とよんでいる『京都大学人文科学研究所調査報告』もあり、35冊に達している。

紀要や研究報告といった格式ばった出版物の外に、研究所員の相互啓蒙・相互批判の場として、1970年10月に発刊された小冊子、所報『人文』があり、年2回程度発行され、すでに32冊を数える。巻末に、各研究者の長短を問わない「書いたもの一覧」が掲載されているので、重宝がる外部の方もおられるという。

所報『人文』は、所外の方々への広報活動をも兼ねているのであるが、本研究所は、定期および不定期の講演会を開催することによって、研究成果を広く公開する事業を行っている。

定期的な公開講演会としては、ま



研究報告『ボードレール「悪の花」註釈』（1986年刊）

ず8月1日から3日までの午前中に開かれる夏期講座がある。年ごとに設定されるテーマに基づき、そのテーマにふさわしい研究者が、日本・東方・西洋の各部から2名ずつ講師として選ばれる。ちなみに今夏の共通テーマは「社会・技術・人間」であった。この夏期講座が、学生をも含む一般市民の方を対象とした教養講座的な性格が強いのに対し、所内研究者の所外向けの学術講演会的性格をもったものとして、11月9日前後の午後

に行われる開所記念講演会があり、各部から1名ずつが講師となって研究発表を行っている。

これらの外に停年退官記念講演会があり、これは他学部での停年講義に相当する。停年退官所員のある年ごとに開催されていて、今春には柳田聖山教授の「風流・風雅・風狂」と題する講演が行われた。

(人文科学研究所)

<資 料>

昭和61年度新設の建物等 (追加)

昭和61年度の施設整備費 (本広報 No.314 で掲載した以後の追加) として認められたものは次のとおりである。

建築施設名	延面積	竣工予定時期	備考
吉田地区基幹整備	— m ²	昭. 62. 6. 30	特高受変電設備増設

医学部附属病院内科系病棟 (仕上)	17,800	62. 9. 14	地上 8 階 地下 1 階
医学部臨床研究棟 (仕上)	12,600	62. 11. 25	地上 8 階 地下 1 階
病院地区基幹整備	—	62. 3. 31	サービス・サブライ棟増築(380m ²) 自家発電機設備増設

注：表中 (仕上) とは、内、外装及び建物附帯設備工事等をいう。

訃 報

市川美智子 (工学部情報工学科事務主任)

7月13日逝去, 50歳。昭和29年農学部勤務, 工学部, 55年同学部情報工学科事務主任。60年永年勤続者表彰 (30年勤続) を受ける。

木原 均 (工学部名誉教授・理学博士)

7月27日逝去, 92歳。北海道帝国大学農学部卒業。昭和2年本学農学部教授就任, 30年本学より国立遺伝学研究所長に昇任。その間評議員 (15年~17年) を併任。15年日本遺伝学会賞, 18年小麦の研究により帝国学士院恩賜賞, 23年文化勲章, 24年日本学士院会員, 26年文化功労者, 50年勲一等旭日大綬章。専門は植物遺伝学。

高宮 芳江 (工学部事務官)

8月15日逝去, 60歳。昭和38年工学部勤務。58年永年勤続者表彰 (20年勤続) を受ける。

神崎 博愛 (工学部名誉教授・農学博士)

8月25日逝去, 78歳。本学農学部卒業。昭和33年本学農学部教授就任, 47年退官。その間農学部附属農業簿記研究施設長 (43年~46年) を併任。54年勲三等旭日中綬章。専門は農業経営学。

中島 義徳 (農学部附属水産実験所技官)

9月4日逝去, 53歳。昭和38年理学部, 農学部, 47年農学部附属水産実験所。58年永年勤続者表彰 (20年勤続) を受ける。

大橋 博司 (工学部名誉教授・医学博士)

9月11日逝去, 62歳。本学医学部卒業。昭和48年本学医学部教授就任, 60年本学より国立京都病院長に転任。専門は精神医学。

第25回国立七大学総合体育大会で本学が総合優勝

このたび本学の主管により第25回国立七大学総合体育大会が、6月24日（火）から8月9日（土）までの間（アイスホッケー・グライダー・馬術は期間外）地元京都で開催され、各大学の選手及び関係者約1万名を迎え24競技31種目にわたり、熱戦がくりひろげられた。

本大会は、北海道大学・東北大学・東京大学・名古屋大学・京都大学・大阪大学・九州大学の七大学により構成され、毎年、各大学輪番で開催しているもので、昭和37年に第1回大会が北海道大学の主管により開催されて以来、今回で第25回を数える伝統ある大会である。

今大会は七大学間の実力が伯仲して例年にない接戦となり、総合優勝をめぐる争いも最後の種目が終わるまで確定できないというし烈な戦いとなった。

本学は、柔道部の七大学戦6連覇を筆頭に、全31種目中9種目を制し、また総合成績においても東京大学と大阪大学の猛追をかわし、前回主管の昭和54年以来7年ぶりの総合優勝を果たした。

なお、各大学の種目別の成績は次のとおりである。

種目	北海道大	東北大	東京大	名古屋大	大阪大	九州大	京大
アイスホッケー	1	2	6	7	3	5	4
航 空	1	1	3	7	4	5	5
馬 術	3	6	2	5	—	4	1
硬 式 野 球	—	4	—	2	5	1	3
準硬式野球	3	6	2	7	4	5	1
空 手 道	6	4	2	5	3	7	1
硬式庭球(男)	7	5	1	6	4	2	3
硬式庭球(女)	1	4	7	6	2	5	3
柔 道	6	1	3	5	3	6	1
バスケットボール(男)	6	7	3	1	5	4	2
バスケットボール(女)	5	6	3	4	1	7	2
軟式庭球(男)	7	6	3	2	5	4	1



優勝した柔道の表彰式

軟式庭球(女)	7	2	3	4	1	5	6
バレーボール(男)	6	4	2	5	3	1	7
バレーボール(女)	4	7	5	1	3	2	6
体 操	5	4	3	6	1	—	2
剣 道 (男)	3	6	5	4	7	1	2
剣 道 (女)	1	7	4	2	5	3	6
陸上ホッケー	4	—	2	—	3	5	1
少林寺拳法	5	7	1	3	2	4	6
ハンドボール	1	3	2	6	5	7	4
水 泳	5	6	2	7	3	4	1
自 動 車	5	2	—	4	3	6	1
ヨ ッ ト	4	7	3	6	5	1	2
バドミントン(男)	6	2	5	1	3	7	4
バドミントン(女)	3	4	5	6	2	1	7
ゴ ル フ	2	6	3	4	7	5	1
弓 道	5	2	1	4	7	6	3
陸上競技	7	5	1	3	4	6	2
卓 球 (男)	5	2	4	6	1	7	3
卓 球 (女)	1	6	2	5	3	7	4
総合得点	131.5	117	172	116	151	118	182.5
総合順位	4	6	2	7	3	5	1

(学生部)

日 誌

(1986年7月1日～8月31日)

- 7月3日 総長，大学院生協議会と会見
 4日 環境保全委員会
 8日 大学院審議会
 9日 国際交流委員会
 ♪ ソビエト社会主義共和国連邦 Vilnius 大学 Yonas Petrovich Kubilyus 学長及び Tashkent 大学 S.H. Sirajdinov 学長来学，



ソ連ヴィルニウス大学 Kubilyus 学長及びタシケント大学 Sirajdinov 学長の来学（7月9日）

- 総長及び関係教員と懇談
 11日 安全委員会
 ♪ 農学部附属農業簿記研究施設公開講座「農業簿記・経営講習会」（16日まで）
 15日 国際交流会館委員会
 19日 アメリカ合衆国 Brown 大学 Maurice Glicksman 副学長来学，総長及び関係教員と懇談
 23日 学位授与式
 24日 理学部数学教室公開講座「高等学校教育関係者のための現代数学展望」（30日まで）
 30日 農学部林産工学教室，木材研究所公開講座「木材の科学」（8月1日まで）
 8月1日 人文科学研究所夏期公開講座「社会・技術・人間」（3日まで）
 4日 文学部博物館竣工披露式
 5日 霊長類研究所公開講座「サル生物学」（6日まで）

